

労働を生活を社会を変える

RJ

労働情報

799 2010.9.15

奪うな生活と職場を



【表紙写真】 デイベンロイのストライキ (本誌 12頁)。

(8月26日 写真撮影・浅井真由美/岩崎松男)

無慈悲な使い捨てにはストライキで闘う

工場閉鎖も組合つぶしも許さない

本誌796号「たたかひの現場から」で紹介した埼玉県三郷市にあるクリーニング工場、セブンス・クリーナーの工場閉鎖問題が大詰めを迎えた8月26日、その本社がある都内大田区大森のデイベンロイ・リネンサプライにおいて本社と子会社の組合員約100名が朝8時から17時までの終日ストに突入した。

このストライキは、会社が9月20日に三郷工場の閉鎖を実施するため、そこで働いているパート従業員など約80名に対して8月末に出されようとしている解雇通知の撤回と、耐震問題を口実に大森工

場の閉鎖をも目論んでいる会社への抗議を含めて行ったものである。

全労協全国一般東京東部労組・デイベンロイ支部が同セブンス・クリーナー分会と合同でストライキを実施した背景には、親会社に当たるサニークリーニンググループが三郷工場に続いて大森本社工場も廃止し、現在建設中の茨城県常総市中妻町の洗濯工場に全ての業務を集約すると共に、一挙に労働組合つぶしをも図る計画が見えている。

10時15分からデイベンロイ大森工場内で開催された決起集会には多くの支援者もかけ

つけ、激励のメールを送ると共に「工場閉鎖反対！三郷工場へ洗濯物を返せ」のかけ声高く、炎天下での構内デモでアピールした。11時から行われた団体交渉では「三郷工場の組合員へは解雇通知は出さず、再就職については協議する。大森工場の閉鎖についても今後協議していく」旨の会社側回答が示されたが、組合員の大多数は「そんな内容ではとうてい納得できない」として、ストライキの続行を求めた。

午後からは港区三田・国際ビル11階にあるサニークリーニング本社へと移動し、門前払いしようとした会社側を当該組合員と支援者による迫力で黙らせ、整然とした申し入れ行動を行ってきた。

【最新情報】

制服などのクリーニング事業を行うデイベンロイ・リネンサプライが、埼玉県三郷市にある子会社・セブンスクリナー三郷工場を9月20日に一方的に廃止する計画に反対し、東京東部労組・デイベンロイ支部は、7月14日の三郷工場半日指名スト、8月26

日の三郷・大森本社工場組合員合同の終日ストを決行した。だが会社は話し合いではなく、9月8日に三郷工場の機械の解体・搬出を強行しようとしている。

東部労組及びデイベンロイ支部と同セブンスクリナー分会は、こうした会社の暴挙を許さず徹夜の警戒態勢をとって対抗することを決定し、支援者に結集を呼びかけている。(本誌副編集長 岩崎松男)